



IFALPA DG (Dangerous Goods) Committee 出席報告

2011年9月、IFALPA DG Committee がポルトガルのリズボンで開催されました。ALPA Japan から10年以上に亘って孤軍奮闘されていた前委員長が引退されたことから、新 DG 委員長が出席して活発な意見交換が行われました。

アジア地域から DG Committee への参加は例年少なく、残念ながら今回も日本からの参加だけでした。一方で、2010年に発生した UPS 機のドバイでの墜落や、2011年7月に大量のバッテリーを搭載して墜落したアジアナ貨物機（いずれも詳細は未発表）など、アジア地域での危険物に関連する事例が散見されます。このことから今後、アジア地域における危険物に対する取り組みはさらに重要になってくることは間違いないでしょう

DG Committee では、様々な会議体のレポートを参照し、IFALPA DG Committee としての意見を集約して各国メンバーに Feed Back する作業を行っています。過去の日乗連技術情報などで紹介した ICAO Dangerous Goods Panel をはじめとして、IATA Dangerous Goods Board や一般にはあまり聞き慣れない Universal Postal Union など、様々な会議体において危険物に関する議論が活発に行われています。当然ながらその内容は非常に細かく、多岐に渡っています。1つ1つの議題を全て把握し、News などの媒体で紹介する作業は現実的ではないので、今後は日本の航空業界で優先順位の高いと判断される内容を中心に日乗連 DG 委員会が情報を発信していきたいと思えます。勿論、危険物に関する内容の問い合わせがあれば DG 委員会にお寄せください。

今 Committee でのメインテーマはリチウムバッテリー（以下、Li BATT）でした。Li BATT に関しては2011年8月18日に IFALPA から Statement が発行され、日乗連 News35-08 で内容を紹介しておりますので、今一度ご一読下さい。

日本国内では各社の Operation Manual 等の規定類において、毎フライトで確認する危険物の種類として“**放射性物質**”や“**磁性物質**”、“**ドライアイス**”等が挙げられますが、Li BATT に関しては少量の受託のみが許容されており、機長への通知は行われません。しかしながら、前記した UPS やアジアナ機の様に残念な結果につながる危険性が高い Li BATT に対して「**本当の意味で**」十分な知識付与や対策が取られているわけではないというのが現実です。日乗連 DG 委員会ではこの点に注目し、今後は Li BATT はどのようなものか、どのような事故事例があるのか、そして現在はどのような議論が行われ、どのような対策を取ることが望ましいのかなどを紹介し、広く発信する事で航空機運航の安全性向上に取り組んで生きたいと考えています。

(以上)

(参考)

リチウムイオンバッテリー

⇒ 一般的に充電が可能なリチウム電池。

パソコンや携帯、デジカメや携帯音楽プレイヤーなどに使用される。

リチウムメタルバッテリー

⇒ 一般的に充電できないリチウム電池。

使い捨てカメラやフラッシュライトなどに使用される。